

1. 科目名 (単位数)	老年・小児医学特論 (2単位)	池袋	3. 科目番号	SSMP5326
2. 授業担当教員	大島 一成・横田 俊平			
4. 授業形態	講義および文献購読、討論 (学生への質問、討議など)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし		履修形態 (通信教育)	
7. 講義概要	我が国は少子高齢社会であり、2020年には65歳以上高齢者の総人口に占める割合は29%を超え、2040年には65歳以上高齢者人口は推定3.867万人程度でピークを迎え、その後も数十年間以上維持されるとされている。2019年現在、3.5人に一人が65歳以上で、世界最高水準の高齢化率である。この原因は少子化の進行と長寿化の進展であり、今後も高齢化は進行し、2050年には40%近くになる。他国と比較して世界最先端の少子超高齢化社会をむかえており、他国をリードすることのできる高いレベルの老年・小児医療提供体制を構築していく必要がある。少子高齢社会では、医療者のみでなく、福祉サービス系スタッフなどの観点から限られた医療系資源の有効活用が必要である。このため老人・小児の身体的特徴及び疾病症状の特異性を含み医学的問題を中心として、社会的問題 (養育者、介護者、QOLなど) も講義や調査発表から討論し学習していく。			
8. 学習目標	1.老年者、小児の解剖生理学的知識について説明することができるようになる。 2.老年・小児医学の特徴から危機管理上問題となる類似点を整理することができるようになる。 3.それぞれの特有疾患、症候群を述べるようになる。 4.養育者、介護者の違いを理解し、経済的や死に対する対応の違いなどを説明することができるようになる。 5.社会福祉法人制度の改革、子ども・子育て支援制度を考察することができるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】参照 宿題1. 小児と成人の解剖生理学的違いを述べる (テーマ2.終了時点でレポート提出) 宿題2. 小児と老年者の医療事故の違いについて(テーマ4終了時までレポート提出) 課題1. 小児医学に特有な疾患・症候群、小児に特有な事故、食育問題などを述べる事が出来る (テーマ10.終了時レポート提出) 課題2 老年医学の基礎知識を説明し、時代の流れや福祉ニーズの変化などに伴った社会福祉法人制度の改革、子ども・子育て支援新制度を述べる (テーマ15.終了時点でレポート提出)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】宮越浩一編著：高齢者リハビリテーション実践マニュアル。メジカルビュー社、東京 2014年 内山 聖監修、原 寿郎、高橋孝雄、細井 創編著：標準小児科学。医学書院、東京 2015年 【参考書】相磯禎和、渡辺修一訳：J.T.Hansen ,B.M.L. Koeppe;ネッター解剖生理学アトラス。南江堂、東京 2014年 厚生労働省編：平成26年版厚生労働白書—健康長寿社会の実現に向けて。日経印刷、東京 2014 大塚 昇、福田素生、中村幸枝他編著：国民の福祉と介護の動向 2015/2016。厚生指標増刊・62 (10)、厚生労働統計協会、東京 2015年 伊藤雅治、野田博之、奥田章子他編著：国民衛生の動向 2015/2016—地機医療構想、難病法など最新の保健医療行政の動向。62 (9)、厚生労働統計協会、東京 2015年 佐藤益子編著：子どもの保健Ⅰ。みなみ書房、神奈川 2016年 東康祐、渡辺道代編：高齢者に対する支援と介護保険制度。弘文堂、東京 2015年			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1.老年者、小児の解剖生理学的知識について説明できるようになったか。 2.老年・小児医学の特徴から危機管理上問題となる類似点を整理できるようになったか 3.それぞれの特有疾患、症候群を述べる事が出来るか。 4.養育者、介護者の違いを理解し、経済的や死にたいする対応の違いなどを説明できるようになったか。 5.社会福祉法人制度の改革、子ども・子育て支援制度を考察することができるか。 ○評定の方法 1.成績の評価は総計4本のレポートの評価、日常授業態度の結果によって決められる (通信生の場合はスクリーニング時の態度) 宿題 1. 20% 宿題 2. 20% 課題 1. 20% 課題 2. 20% 授業態度 20%			
12. 受講生へのメッセージ	自らの関心に従い、隠れた問題を発見し、研究テーマを設定する。研究を通じて、解決する方法と能力を養い、博士論文へ結実する研究を行う。院生は指導教員の研究指導のもと、保健医療科学系、高齢者保健福祉系、老年医学系、小児医学系、小児保健学系の学会に参加、発表を行い、日本学術会議連携の茶屋四郎次郎記念学会での発表や同学会誌への投稿などの研究成果を上げる。			
13. オフィスアワー	授業の前後4時間			
14. 学習の展開及び内容				
1. テーマ	小児の体のしくみとはたらき 赤ちゃんはなぜお母さんを見てわらうの？			
【学習の目標】	発達段階の人体のしくみとはたらき			
【学習の内容】	成長、発達、発育の概念と定義			
【キーワード】	発育曲線、成長障害、身体成長パーセントイル曲線、第二次性徴、新生児反射、発達スクリーニング検査、知能指数、母乳、人工栄養、離乳			
【学習の課題】	小児の成長、小児の発達、小児の栄養、栄養と中枢神経機能			
【参考文献】	内山 聖監修、原 寿郎、高橋孝雄、細井 創編著：標準小児科学 4-37。医学書院、2015 澤口聡子：小児のからだと先天性疾患 in 人体のしくみとはたらき(澤口彰子他著)。132-141、朝倉書店、東京 2015 児玉浩子：小児の栄養療法 in 栄養療法がわかる！できる！(奥野浩生編)。220-228、羊土社、東京 2016			
【学習する上での留意点】	小児の特徴である growth,(身長、体重などの増加)、development,(精神、運動、生理などの機能面の成熟)、発育 (成長と発達を包括した概念) に留意し、発育を支える小児栄養と親子の愛情関係に留意する。			
2. テーマ	人は何故老いるのか 老年者のからだのしくみとはたらき			
【学習の目標】	成年期以降の人体のしくみとはたらき			
【学習の内容】	老年者の身体のしくみを科学的に理解			
【キーワード】	老化、加齢、生理的老化 (白髪、皮膚・しわ、反射神経低下、視力・聴力低下など)、病的老化 (骨粗鬆症による転倒・骨折、廃用症候群、老年症候群、頻尿、認知機能低下など)			

	<p>【学習の課題】 老年者の心身の特性と支援</p> <p>【参考文献】 相磯禎和、渡辺修一訳：J.T.Hansen ,B.M. Koeppen;ネッター解剖生理学アトラス.南江堂、東京 2014 年 川田 暁：皮膚の老化とその対策.日本医師会雑誌、137 (12) pp.2427-2430 (2009) 木村みさか：高齢者の身体機能と易転倒性。日本医師会雑誌 137 (11)、pp.2261-2265 (2009)</p> <p>【学習する上での留意点】 生理的老化と病的老化の関連性に留意、精神面の問題にも留意</p>
3 . テーマ	<p>知っておくと役に立つ小児医療事故の知識と社会福祉的支援</p> <p>【学習の目標】 小児医療におけるリスクマネジメント</p> <p>【学習の内容】 目に見えにくいものは改善できないのか</p> <p>【キーワード】 構造、課程、結果、小児医療事故、小児医療訴訟、医療安全、ガイドライン</p> <p>【学習の課題】 小児医療のリスクマネジメントを考える</p> <p>【参考文献】 阿部祥英：小児科病棟のリスクマネジメントを考えるにあたって.昭和学術誌 73 (4)、pp.307-315 (2013)</p> <p>【学習する上での留意点】 小児と養育者の関係、バランスの良さ</p>
4 . テーマ	<p>知っておくと役に立つ老年者医療事故の知識と社会福祉的支援</p> <p>【学習の目標】 老年医療におけるリスクマネジメント</p> <p>【学習の内容】 目に見えにくいものは改善できないのか</p> <p>【キーワード】 構造、課程、結果、医療安全、ガイドライン、老年者医療事故、老年者医療訴訟、</p> <p>【学習の課題】 老年医療のリスクマネジメントを考える</p> <p>【参考文献】 澤口彰子：高齢者医療・老人医療 in 実務医事法第2版(加藤良夫編著).pp.755-762、医事法研究会、東京 2014 年 石崎達郎：レセプト情報からみた高齢者医療.日本老年医学会雑誌 53 (1)、pp.4-9 (2016)</p> <p>【学習する上での留意点】 老年者と介護者・家族との関係、医療安全教育の有無</p>
5 . テーマ	<p>小児医学に特有な疾患、症候群を理解する</p> <p>【学習の目標】 少子社会における子育て支援に係わる予防医学</p> <p>【学習の内容】 新生児疾患</p> <p>【キーワード】 在胎期間、出生体重、新生児生理(出生時呼吸循環適応、神経系の発達など)、身体所見(正常、異常)、ハイリスク児、感染症、先天性横隔膜ヘルニアなど</p> <p>【学習の課題】 新生児医学に特有な疾患、症候群からみた少子社会における子育て支援</p> <p>【参考文献】 内山 聖監修、原 寿郎、高橋孝雄、細井 創編著：標準小児科学 pp.76-134。医学書院、2015</p> <p>【学習する上での留意点】 小児医療では、多くの軽症患児の中に潜む一見軽症だが、実は重篤な急性疾患や進行性の慢性疾患があることに留意する。また、ワクチン問題も重要である。</p>
6 . テーマ	<p>小児医学に特有な疾患、症候群を理解し、小児の救急発症や突然死の社会福祉的課題につなげる</p> <p>【学習の目標】 少子社会における子育て支援に係わる小児救急医学</p> <p>【学習の内容】 救急疾患(溺水、熱傷、誤嚥・誤飲による窒息、薬物・食中毒、熱中症)</p> <p>【キーワード】 意識障害、心肺蘇生、ショック、発熱、嘔吐、下痢、腹痛、疼痛、頭痛、皮膚潰瘍など</p> <p>【学習の課題】 救急疾患からみた少子社会における子育ての養護と管理</p> <p>【参考文献】 内山 聖監修、原 寿郎、高橋孝雄、細井 創編著：標準小児科学。pp.61-71、医学書院、2015</p> <p>澤口彰子他著：臨床のための法医学、第6版、朝倉書店、東京 2014 年</p> <p>【学習する上での留意点】 小児疾患の特性を踏まえた救急医療に留意する</p>
7 . テーマ	<p>小児医学に特有な疾患、症候群を理解するーゲノムの世界にはいる</p> <p>【学習の目標】 先天性・遺伝性疾患、アレルギー性疾患、神経/神経筋疾患の理解から子育て支援にかかわる</p> <p>【学習の内容】 Down 症候群、小児糖尿病、先天性心疾患、先天性ネフローゼ症候群、痙攣性疾患(てんかん)、重症筋無力症、筋ジストロフィー</p> <p>【キーワード】 遺伝子、染色体、アトピー、じんましん、気管支喘息、チアノーゼ、失神、</p> <p>【学習の課題】 小児慢性疾患にみられる特有な症状の理解緩和と患児の QOL 増進</p> <p>【参考文献】 田中祥介：小児在宅医療の実態と課題。日本医師会雑誌、142 (7)、pp.1547-1550 (2013)</p> <p>内瀬安子：小児・ヤング糖尿病.シービーアール、東京 2005 年</p> <p>澤口聡子：小児のからだと先天性疾患 in 人体のしくみとはたらき(澤口彰子他著).132-141、朝倉書店、東京 2015</p> <p>【学習する上での留意点】 新生児医療の進歩で超重症児が究明されるようになった反面、医療的ケアを生涯必要とする小児糖尿病などの児の増加に留意</p>
8 . テーマ	<p>突然の発症や原因不明の疾患を理解し、少子社会の支援にかかわる</p> <p>【学習の目標】 保育園、学校での突然の発症を理解し、予防する</p> <p>【学習の内容】 乳幼児突然死症候群、児童・生徒の心臓突然死、内服薬事故、おやつ・食事に関する事故</p> <p>【キーワード】 不整脈、期外収縮、呼吸困難、呼吸停止、頻脈、徐脈、心停止、心電図、S I D S、Fallot 四徴症、WPW 症候群</p> <p>【学習の課題】 園児、児童・生徒の突然の異状</p> <p>【参考文献】 内山 聖監修、原 寿郎、高橋孝雄、細井 創編著：標準小児科学 138-139。医学書院、東京 2015 年</p> <p>澤口彰子、澤口聡子：乳幼児突然死症候群。日本臨床、63 (7) pp.1255-1260 (2005)</p> <p>澤口彰子：乳幼児死亡率改善の為の研究(総合研究報告書)平成 12 年度厚生科学研究、こども家庭総合研究事業報告書、583-596,2001</p> <p>【学習する上での留意点】 少子社会において、この病因・病態とその対策に留意する</p>
9 . テーマ	<p>乳幼児期の事故と小児虐待の諸問題</p> <p>【学習の目標】 乳幼児期の事故の成因に異物誤飲、交通事故、溺水の頻度が高いことを学習</p> <p>【学習の内容】 乳幼児期の異物誤飲、交通事故、溺水、熱傷などの疫学、予防、症状、予後などの学習から、家庭、保育園、学校での事故の対策をはかる</p> <p>【キーワード】 外傷、多発性損傷、頭部外傷、溺水 near drowning、中枢神経系 hypoxic ischemic encephalopathy、熱傷面積チャート</p> <p>【学習の課題】 乳幼児異物誤飲、乳幼児頭部外傷、near drowning、乳幼児熱傷の特徴</p> <p>【参考文献】 大關武彦、古川 漸、横田俊一郎、水口 雅(総編著)：今日の小児治療指針第 15 版。医学書院、東京 2014 年</p> <p>宮腰奏子：児童虐待の現状・近年の児童虐待防止対策を巡る法改正について.罪と罰、55 (2)、pp.25-45、2018。</p> <p>山元照明：児童虐待と児童相談所のいま.罪と罰 55 (2)、pp.46-61、2018。</p> <p>【学習する上での留意点】 乳幼児の頭部外傷は軽微な受傷機転でも重篤な病像を、また重篤患児でも治療予後良好であるなどの特徴に留意。これは乳幼児の解剖生理学的特性による。</p>
10 . テーマ	<p>食育問題</p> <p>【学習の目標】 一般臨床・保健活動に臨床栄養をやくだてる</p>

<p>【学習の内容】 小児及び老人の食・栄養の問題と対応</p> <p>【キーワード】 栄養療法、栄養アセスメント、成人病胎児期起源仮説、咀嚼・嚥下障害、食物認知、経管栄養</p> <p>【学習の課題】 老年・小児共通主疾患に対する食事療法（糖尿病、脂質異常症、高血圧、腎疾患、肥満）</p> <p>【参考文献】 児玉浩子,木村 理監修：実地医家のための臨床栄養 update.日本医師会雑誌、142（2）、pp.243-297（2013）</p> <p>児玉浩子：小児の栄養療法 in 栄養療法がわかる！できる！（奥野浩生編）. pp.220-228、羊土社、東京 2016</p> <p>【学習する上での留意点】 日本人の食事摂取基準、最近の健康栄養問題などに留意</p>	
<p>1 1 . テ ー マ</p>	<p>老年医学の基礎知識—世界の動向は？</p>
<p>【学習の目標】 最近の老年者、老年患者の動向</p> <p>【学習の内容】 少子化が進展する一方、65 歳以上人口の増加によって、総人口に占める高齢者の人口割合が増加し、国民の 4 人に一人が高齢者となっている、その生活機能（老化度）や健康度の分布も学習</p> <p>【キーワード】 高齢化の進展、人口構成の変化、特定健診、特定保健指導、健康寿命、平均寿命</p> <p>【学習の課題】 老人医学における健康寿命の重要性とその延伸指導</p> <p>【参考文献】 厚生労働省編：平成 26 年版厚生労働白書—健康長寿社会の実現に向けて.日経印刷、東京 2014 年</p> <p>能勢 博：老年医学の展望.日老医誌、2017、54、pp.10-11.</p> <p>麻田 隆：認知症予防としての生活習慣病予防,東京都医師会雑誌、71（3）、pp.24-29、2018.</p> <p>【学習する上での留意点】 健康を取り巻く社会状況の変化と健康意識によって長寿者がおおくなり、平均寿命と健康寿命の差が延伸。そのため医療費や介護給付費の負担がおおくなる可能性があり、老年者、老年患者一人一人が健康づくりをして、平均寿命との差を少なくしていくことを留意。</p>	
<p>1 2 . テ ー マ</p>	<p>老年者の主要疾患のみかた・生と死の問題</p>
<p>【学習の目標】 老年病の特徴</p> <p>【学習の内容】 一人で多くの疾患、疾患兆候が非定型的、疾患病態が異なる、治療や薬剤に対する反応が異なる、侵襲的検査を行い難い、他の合併症を起し易い、個人差が大きいなど</p> <p>【キーワード】 虚血性心疾患、不整脈、心不全、心筋症、高血圧、動脈硬化、動脈瘤、肺炎、肺がん、COPD、結核、気管支喘息、胆石症・胆のう炎、糖尿病、脂質異常症、肝炎・肝硬変、汎発性血管内凝固症候群、感染症、認知症、パーキンソン病、うつ病、ロコモティブシンドローム、骨粗しょう症、変形性関節症、腰部脊柱管狭窄症、骨折、じん不全、前立腺肥大症・癌、尿路感染症、萎縮性膀胱炎、白内障、緑内障、加齢性難聴、褥瘡、脳血管障害</p> <p>【学習の課題】 循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、内分泌・代謝疾患、精神神経疾患、骨代謝疾患などの特調</p> <p>【参考文献】 林 榮史、大内尉義、上島国利,鳥羽研二(監編集)：高齢者診療マニュアル。日本医師会雑誌、138 特別号（2）、pp.134-267（2009）</p> <p>中村耕三、田中 栄(監修)：ロコモティブシンドロームのすべて。日本医師会雑誌、144 特別号（1）、（2015）</p> <p>【学習する上での留意点】 成人とは異なる老年病の特徴に留意。</p>	
<p>1 3 . テ ー マ</p>	<p>老年者への応急・救急対策・社会福祉問題</p>
<p>【学習の目標】 加齢に伴う諸機能の低下によって発症した応急処置・救急疾患とその対策</p> <p>【学習の内容】 誤飲・誤嚥による窒息時の救急処置、転倒・転落・骨折の応急処置、脳血管障害の急性期治療、てんかんによる痙攣に対する処置、急性心筋梗塞の診断のポイントと管理上の注意点、急性腹症の応急処置、高齢者の入浴事故の予防</p> <p>【キーワード】 嚥下機能、窒息、背部叩打法、Heimlich 法、吸引、外傷、意識障害、局所所見、患肢安静固定、疼痛コントロール、深部静脈血栓症予防、ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症、高血圧性脳内出血、血栓溶解療法、脳保護薬、失神、けいれん重積状態</p> <p>【学習の課題】 加齢に伴う諸機能の低下によって発症した疾患の応急・救急処置</p> <p>【参考文献】 林 榮史、大内尉義、上島国利,鳥羽研二(監編集)：高齢者診療マニュアル。日本医師会雑誌、138 特別号（2）、pp.272-289（2009）</p> <p>日本老年医学会編：健康長寿診療ハンドブック。メジカルビュー社、東京 2011 年</p> <p>【学習する上での留意点】 応急・救急対策のみでなく、危機管理も留意</p>	
<p>1 4 . テ ー マ</p>	<p>老年者のリハビリテーション—健康と日常生活との関係</p>
<p>【学習の目標】 超高齢社会の今後を見据えた老年者リハビリテーションプログラムの考察</p> <p>【学習の内容】 我が国の高齢化率、地域偏在、医療提供体制、老年者の特徴、身体精神機能維持などを考慮した老年者リハビリテーションプログラムの考察</p> <p>【キーワード】 情報収集（リスク管理必要情報など）、廃用症候群、退院支援、在宅リハビリテーション、終末期リハビリテーション、呼吸リハビリテーション、抗血栓薬とリハビリテーションポイント、関節可動域、筋力、ADL 評価、呼吸アセスメント、偽関節、遷延融合、異所性骨化、意識障害、血圧変動、血管迷走神経反射不整脈、老年者に多い疾患とリハビリテーションの実際；脳卒中、パーキンソン病、慢性呼吸器不全、骨折、変形性関節症など</p> <p>【参考文献】 宮越浩一編著：高齢者リハビリテーション実践マニュアル.MEDICAL VIEW、東京 2014 年</p> <p>菅原正弘：患者の健康寿命を延ばすための実践マニュアル。日本医学出版、東京 2016 年</p> <p>【学習する上での留意点】 併存疾患の管理、リハビリテーションに伴うリスク管理、老年者に多いサルコペニアも含む低栄養、嚥下障害、排尿障害、発熱、転倒を繰り返す症例などへの対応にも留意</p>	
<p>1 5 . テ ー マ</p>	<p>社会福祉法人制度の改革、子ども・子育て支援新制度</p>
<p>【学習の目標】 老年・小児医学・医療の発展による時代の流れや福祉ニーズの変化などに伴った社会福祉法人制度の改革、子ども・子育て支援新制度を学習</p> <p>【学習の内容】 介護サービスや保育園などにおける不正事故(医療事故隠蔽、児童虐待、老人虐待) .生活習慣、生活環境に係わる喫煙、アルコール関連疾患、糖尿病、癌、休養・心の問題. 少子社会の現状を理解したワクチン問題、母子保健医療</p> <p>【キーワード】 平均寿命、平均余命 健康寿命、健康長寿社会、食事バランスガイド、エクササイズガイド、喫煙、アルコール関連疾患、糖尿病の増加、最大死亡原因の癌、休養・心の問題、メンタルチェック制度、産業医、学校医、園医</p> <p>【学習の課題】 社会福祉法人制度の改革、子ども・子育て支援新制度の考察</p> <p>【参考文献】 増田雅暢、福田素生、大橋 正他編著：国民の福祉と介護の動向 2015/2016 「子ども・子育て支援新制度」と「社会福祉法人制度の改革」.厚生指標増刊 62（10）、厚生労働統計協会、東京 2015 年</p> <p>厚生労働省編：平成 26 年版厚生労働白書—健康長寿社会の実現に向けて.日経印刷、東京 2014 年</p> <p>弓倉 製、五十嵐 隆、児玉浩子監修：園医、学校医の役割。日本医師会雑誌、141（7）、pp.1475-1526（2012）</p> <p>【学習する上での留意点】 老年・小児医学・医療の発展による時代の流れや福祉ニーズの変化などを踏まえて考察。</p>	